

2014年度活動報告

1. 取り組み全体のまとめ

- (1) 2014年度は、第5次中期計画の2年目として、公益社団法人として、公益性、信頼性は維持し、また、行政や地域の諸団体、市民グループ、福井県民生協とも連携しながら、「消費者自立支援」「家族の暮らし支援、地域の暮らし貢献」「情報ネットワーク」の3つの役割を果たし、県民へのお役立ちの活動を広げました。
- (2) 福井県消費生活センター委託事業である消費生活セミナーは10年目を迎えました。今年度は生協のライフプランアドバイザーの会との連携を図り、特にライフプランのテーマを重視した講座を展開しました。
- (3) 新規事業である「ハートクッキング」は若い世代のくらし事業参加のきっかけとなり、食の活動の幅を広げる機会となりました。
- (4) 鯖江市の食の安全安心講座、大野市の環境塾、食品安全委員会との意見交換会、児童クラブや公民館への出前講座依頼など、地域との連携も進み、地域へのお役立ちも前進しました。
- (5) 消費者のくらし向き調査のマスコミ発表を通じての公表も定着してきました。一方でホームページの活用は思うように進んでおらず、情報発信は今後の課題となっています。

■2014年度の結果数値■

| | 企画数 (回) | | | 参加人数 (人) | | |
|------------|---------|------|--------|----------|------|--------|
| | 実績 | 昨年実績 | 昨年比 | 実績 | 昨年実績 | 昨年比 |
| ■消費者講座 | 33 | 32 | 103.1% | 1168 | 914 | 127.8% |
| (通信講座) | — | — | — | 256 | 207 | 123.7% |
| (消費生活セミナー) | 12 | 12 | 100.0% | 651 | 572 | 113.8% |
| (グループ支援事業) | 18 | 18 | 100.0% | 49 | 38 | 128.9% |
| (県以外の委託講座) | 3 | 2 | 150.0% | 212 | 97 | 218.6% |
| ■食育講座 | 22 | 20 | 110.0% | 729 | 761 | 95.8% |
| ■出前講座 | 15 | 16 | 93.8% | 533 | 556 | 95.9% |
| ■くらし農園 | 19 | 22 | 86.4% | 250 | 334 | 74.9% |
| ■男の料理 | 26 | 22 | 118.2% | 156 | 161 | 96.9% |
| ■ハートクッキング | 3 | 1 | 300.0% | 73 | 24 | 304.2% |
| ■会員数 | — | — | — | 273 | 275 | 99.3% |
| (個人会員) | — | — | — | 251 | 252 | 99.6% |
| (団体会員) | — | — | — | 22 | 23 | 95.7% |

2. 重点的な取り組みのまとめ

(1) 「消費者自立支援」

福井県の委託事業は10年目となりました。また、鯖江市からの「食の安全安心講座」は2年目となりました。

①消費者講座 (福井県消費生活セミナー委託事業)

消費者講座は、世代別を意識して、生協ライフプランアドバイザーの会による「エンディングノート」「ライフプラン」が好評でした。また、国立健康栄養研究所の梅垣敬三氏の「健康食品・サプリメント」や、SNSやLINEをテーマにした高橋暁子氏の「子どものネット利用と見守

り」など、消費者の関心の高いテーマの講座を開催しました。

第1クール 親子講座「ふるふるライトを作ろう」「姿を変える大豆」「お買物ごっこ」

第2クール 暮らしの講座「エンディングノート」「健康食品」「環境 資源循環」

第3クール 暮らしの講座「子どものネット利用」「ライフプラン」「食の安全安心」

②消費生活通信セミナー（福井県消費生活セミナー委託事業）

消費生活通信セミナーは、今年度の目標の230名を大きく上回る256名の登録がありました。福井県民生協職員からの登録は152名ありました。

③消費者グループ研究支援事業（福井県消費生活セミナー委託事業）

3年目となるグループ研究支援事業は、「こどもの暮らしの安心」「食の安全」「ライフプラン」の3つのテーマで実施しました。全18回（3テーマ6講座）の講座で37名の受講生が修了しました。

第1回「こどもの暮らしの安心」 子どもの危険回避研究所 横矢真理氏 他4講師

第2回「食の安全」 至学館大学栄養科学科長 小塚諭氏 他3講師

第3回「ライフプラン」 FPK研修センター 金田浩一氏 他4講師

④鯖江市食の安全安心講座（鯖江市委託事業）

鯖江市の食の安全安心講座は2年目となり、昨年度2回から今年度は3回に増えました。

座学講座① 日時：2014年8月9日(土) 13:30～15:30 場所：鯖江市文化の館

演題：「科学的根拠に基づく食の解説」 講師：科学ライター 松永和紀氏

座学講座② 日時：2015年2月14日(土) 13:30～15:30 場所：鯖江市文化の館

演題：「健康食品を正しく理解しよう」 講師：仁愛大学名誉教授 犬塚學氏

体験講座 日時：2014年8月19日(火) 10:00～12:00 場所：アイアイ鯖江

演題：「ミルクの不思議」 講師：料理アドバイザー 清水知美氏

⑤出前講座

自治体や公民館、児童クラブなどからの出前講座の要請を受けて、出前講座を実施しました。今年度、出前講座の手順書を作成し、担当者以外でも対応できるように整備しました。

⑥内閣府食品安全委員会との意見交換会

食品添加物をテーマに、食品安全委員会と福井県と暮らしの研究所の共催で、「食品安全委員会との意見交換会」を実施しました。

日時：2015年1月23日(金) A O S S A 706・707 会議室 32名参加

テーマ「食品添加物を考えよう」

(2)「家族の暮らしを支援、地域の暮らし貢献」

①通年型食育体験サロン「くらなび農園」

くらなび農園では、16組(大人29人、子ども15人 計44人)が登録し、田畑の耕しから種苗の植え付け、草取り、収穫、加工、調理にいたるまで、一連の農業体験企画を年間通じて実施しました。鯖江市との連携企画や地元の方との交流企画も継続していますが、参加者の拡大と今後の運営方法（担い手問題）については課題となっています。

②男の料理教室

セカンドライフ世代の男性の食の自立のための料理教室を開催しました。「伝統の福井野菜振興協議会」との連携も図りながら、福井の食文化をテーマにした活動なども広げました。家庭でも実践する受講者が増え、家族に喜ばれることで更なる学習意欲が芽生えてきており、成果が確実に出ています。

③ハートクッキング

20代から30代の若者を対象にしたコミュニケーションと出会い、料理教室の場づくりを目的に、今年度は、「アウトドアクッキング」「チーズフォンデュパーティ」「プレートランチ」の3企画を行いました。県の婚活サイトに掲載した効果もあり、どの講座も大盛況でした。

「アウトドアクッキング」

日時：2014年7月12日(土) 場所：SSTランド

「チーズのスペシャリストが贈る気軽に楽しむチーズフォンデュパーティー」

日時：2014年11月22日(土) 場所：ハーツ志比口

「春は出会いの季節です。春を彩るときめきランチ」

日時：2015年3月14日(土) 場所：ハーツ志比口

④総会記念映画会

総会記念映画会は、『食と健康』をテーマに「体脂肪計タニタの社員食堂」の映画上映を行いました。92名の参加がありました。

(3) 暮らしにかかわる、役立つ情報提供

①消費者の暮らし向き調査

暮らし向き調査は通算23回となり、福井県立大学の南保教授のご指導のもと報告書をまとめ、報道機関を通して広く県民に情報発信することができました。今年度は、特に消費税増税直後の意識調査に重点を置き、増税に伴う消費者マインドの傾向を発表していきました。

②暮らしにまつわる受託調査

4団体から6件の調査・分析依頼があり対応しました。

| 調査名 | 主体(委託) |
|----------------------------|------------|
| 生協と暮らしに関するアンケート | 富山県生協 |
| 第9回コープ北陸事業連合組合員満足度調査 | コープ北陸事業連合 |
| 福祉サービス事業所における苦情解決体制整備等現況調査 | 福井県社会福祉協議会 |
| 県内デイサービスセンター事業運営状況等に関する調査 | 福井県社会福祉協議会 |
| 太陽光発電システム設置に関するアンケート | エコプランふくい |
| 温室効果ガス排出実態調査 | エコプランふくい |

③情報誌・ホームページ

情報紙くらなびは、年4回発行しました。ホームページは、タイムリーな更新を心がけましたが、県民との双方向コミュニケーションツールとしては、まだ十分な役割を果たせていません。

(4) 財政・組織体制

①財政

- ・経費コントロールを行い、ほぼ予算内での執行となりました。事業収入では、福井県の委託講座が大半を占めますが、鯖江市の委託講座など新しい財源も増えました。「くらなび農園」や「男の料理」も予算内執行となっています。
- ・会費収入は会員減少を見込んでおり、ほぼ予算どおりとなりました。独自事業の中で新規の個人会員は増えるものの、全体としての個人会員は増えず、また団体への広報活動も不十分なために団体会員は減少しており、公益社団法人への移行を会員の拡大に活かせていません。
- ・公益社団法人として2回目となる指導検査を受けました。特に指摘事項もなく、適切な運営ができていると評価されました。

②組織体制

理事会メンバーのそれぞれの立場でくらなびの事業に参加、協力いただき、主体的な事業運営を行いました。また、外部事業や外部からの出前講座などの要請に応えられる事務局体制を維持できました。